

平成28年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造性に富み、心豊かな、たくましい人間の育成 ・地域に根ざし、地域に愛される「地域の高校」を目指し、学力の向上と調和のとれた人格の形成を図る桂教育の展開 <ol style="list-style-type: none"> 1 学力の向上と希望進路の確保 2 読書活動の推進 3 学校行事の充実と発展 4 健康で安全な学校生活の維持 5 部活動の推進と充実 	<p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学校評価アンケートの実施と授業改善に向けた取組 2 地域や小・中学校に対して連携の充実に向けた情報発信の活発化 3 各種大会（専門学科）での成果発表 4 部活動の充実と活発化 5 HPなど充実した広報活動 <p>課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 上記1、2のさらなる改善・充実・発展 2 進路実現に向けてさらなる支援 3 広域通学に伴う保護者との連携強化 4 女子生徒の部活動の参加 	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒一人ひとりの進路実現に向けた取組 （学習意欲を向上させる取組と家庭学習習慣の確立） 2 全校体制でスーパーサイエンスハイスクール（以下「SSH」という）事業に取り組む （SSH推進委員会の活性化と学科間連携） 3 学校教育に寄せられた期待に応える教職員の自己研鑽 4 保護者と学校の連携強化・情報共有 5 土曜授業のさらなる推進と積極的な取組 6 部活動（特に女子生徒）の積極的参加 7 規範意識の向上と基本的生活習慣の確立

平成28年度 京都府立桂高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（年度末評価）

評価領域	重点目標	具体的方策	No	評価		成果と課題	
組織・運営	◇各種会議の組織体制を整備し、各分掌の機能を活性化する。	◆各分掌部長は学校運営にあたって、校長の経営方針をよく理解し、本校の教育活動全般の活性化に向けて分掌を組織的に導き、活力ある学校運営を行う。	1	B	B	<p>組織的な学校運営に努めたが十分とは言えない。各分掌部長、教科主任を要に部長会議、教科会議の機能を高める工夫が必要である。</p> <p>公開授業も含め他校種間連携は従来通り実施できた。</p> <p>現在のところ一定の志願者数は確保できているが、学習重視・研究重視の学校として信頼を得る取組が必要である。新制度での入学生が3学年そろった。普通科も含めたSSH事業の深化・発展、次期学習指導要領改訂も踏まえ、選抜方法や教育課程等更により良いものにしていきたい。</p>	
	◇地域の信頼を高める学校づくりを行う。	◆小・中学校との連携をさらに深めるため、公開授業や出前授業を実施する。	2	A	B		
	◇平成28年度入学者選抜の改善に向け学校の特色化を図る。	◆選抜方法の工夫・改善を行い、本校が求める生徒の募集につなげる。	3	B			
		◆平成28年度入学生の教育課程や土曜授業が効果的に実施されるよう組織的に取り組む。	4	B			
	◇SSHの取組を研究し、充実させる。	◆普通科を含めた全校的な実施体制を確立し、指定4年目を迎えたSSH事業を一層深化・発展させる。	5	B			B
学習指導	◇「よりよい授業」構築のため、教科指導力を向上させ、生徒の学力充実に繋げる。	◆公開・研究授業週間を年2回実施し、授業アンケートの結果等も踏まえて、教員全員が授業力の向上のため研鑽する。	6	B	A	<p>教員の授業力向上を図るため、年2回の公開研究授業の実施や、外部講師による指導力向上のための研修会の開催、授業アンケートの実施、など授業改善に向けて研鑽を積んだ。</p> <p>授業規律の確保については、全体に落ち着いた様子で授業が展開できた。</p> <p>教育課程については、現行のものが生徒の希望進路に即した効果的なものであるか見直しを計るとともに、平成30年度入学生の教育課程について研究・検討を進めた。</p> <p>土曜授業については、効果的にかつ円滑に実施できた。</p> <p>学習強化週間（考查前2週間）については、担任を中心として各分掌が連携して取り組み、定期考查に向けて、早い時期からの学習への意識付けとしての機能を果たせた。</p>	
		◆授業規律の確立について、全教職員が共通の意識を持ち一致した指導を行うことによって、生徒が集団として学習意欲を持って授業に取り組める基礎を作る。	7	A			
	◇希望進路の実現につながるよう学力を向上させる。	◆各分掌や各教科において生徒の学力の向上と希望進路の実現に向けて創意工夫を重ねるとともに組織的に取組成果を共有する。	8	B	A		B
		◆科目選択を適切に行えるよう、担任と各分掌が生徒及び保護者に対して的確な説明をする。	9	A			
	◇教科に対する興味と学習意欲を高め、学力を向上させる。	◆土曜授業を全学科において年間17回実施し、学力を向上させる。	10	B	B		
		◆学習強化週間（年間計10週間）を定期考查毎に実施し、自学自習・自主自律を基本とした学習習慣を身につけさせる。	11	B			
		◆各学年で、生徒の発達段階と進路希望に応じた行事を開催し、教科指導と連携しつつ学習意欲を高める。	12	B			
生徒指導	◇生徒指導の現状と課題について、教職員の共通理解を深め、基本的な生活習慣と規範意識を確立させる。	◆日常の生活指導の状況について教職員にきめ細かな連絡相談、報告を行う。	13	B	B	<p>服装・頭髪・遅刻指導等年間を通じて教職員全体で実施した。一部人間関係に起因する不登校事例が見られたが、特別指導等困難な事象はほとんど見られなかった。</p> <p>授業中の携帯電話等使用やSNSによる生徒間のやり取りは潜在化しており、メディアリテラシーに基づく指導の徹底が必要となっている。</p> <p>学園祭等、生徒自主活動の実施は一定成果がみられた。生徒の自主性を引き出すリーダー研修等実施も必要となる。</p>	
		◆生徒指導部と学年部、各分掌が連携して授業規律の確立、服装・頭髪指導、遅刻指導にあたる。	14	A			
	◇生徒会を中心にリーダーを育成し、生徒の自主性を育む。	◆生徒会が学校生活のさまざまな面でリーダー性を発揮できるように、生徒指導部を中心に適切な指導を行う。	15	B			
		◆学園祭会議を通して、文化祭や体育祭を全校生徒が自主的に取り組むような行事とする。	16	B			

特別活動等	◇部活動と学習を両立させ、部活動や野外活動等で学ぶ集団行動や規範意識を生徒にわたる基礎とする。	◆部加入率を高めるだけでなく活動内容も充実させ、学校全体を活性化する。 ◆野外活動や研修旅行の教育的意義を十分に理解させ、生涯学習の礎とする。	17	B			部活動加入率は一定上昇しているが、学年進行に伴い低下傾向がみられる。高い競技力を求めない生徒が加入できる運動部や文化系クラブの加入率と活動の質的向上が課題である。 野外活動はその意義や時期も定着し一定成果はみられるが、クラス替えのないHRの活動内容に課題を残している。 研修旅行は一部クラブの公式戦と実施時期が重なった。また、研修旅行の実施目的や形態について、より生徒実態を踏まえたものにするのが課題である。
			18	B	B		
進路指導	◇生涯を見通した進路選択のための適切な指導と援助を行う。	◆3年間の系統的な進路指導計画を策定し、適切な時期に的確な資料・情報を提供する。	19	B	B	各学年の進路指導計画に基づき、学年と情報交換しながら進路指導を行ってきた。1・2年生においては昨年度から設定した進路ガイダンスを軌道に乗せることができた。進路行事の遂行や資料・情報提供は学年との共通認識を図る中でさらに有機的に行うことが課題である。 企業開拓を積極的に行った結果、新たな企業先から内定を得た。昨年度に引き続き年内に内定100%を達成した。また、公務員希望者には外部講師による対策講座を定期的実施してきた結果、合格につながった。 補習については各教科の協力で多数開講できた。受講生徒の定着を図るため実態に即した講座を設け、そのための工夫が必要である。 希望者受験の模擬試験では、受験者が限られ、十分に検討材料が得られない生徒も多かった。授業内実施模試においても、自己の進路開拓に関わってくることを学年団と協力しながら訴え、粘り強く取り組ませる工夫が必要である。模擬試験等の結果分析については学年団とのより一層の連携が必要である。	
	◇希望進路実現のために必要な学力の充実と向上を図る指導と援助を行う。	◆就職希望者のために会社訪問を積極的に行い、企業開拓を実施する。 ◆生徒の実態に即した補習計画（平日補習・長期休業中補習）を効率的に運用するとともに、模擬試験や実力テストを積極的に受験させ活用する。	20	A	B		
			21	B			
人権教育	◇教育活動全体に人権教育を適切に位置づけ、一人一人を大切にしながら教育を推進する。	◆日常の教育活動全般をとらえて、人権問題を自らの生き方の問題として捉えさせる。また、人権学習の講演や映画鑑賞を通じて、自己と他者（社会）との関わりを考えさせたりする。特に、いじめや差別を許さない生徒の育成に努める。	22	B	B	「いじめアンケート」実施と事後指導による丁寧な生徒対応を各学年部と連携して実施した。 人権学習講演会や人権映画鑑賞等の実施と事後指導も行い人権意識向上を図った。	
健康・安全	◇健康・安全についての意識を高め、自律的な生活習慣を確立させる。	◆健康診断の結果を基本的な生活習慣の確立への指導に活用する。 ◆保健委員会活動を活性化し、生徒自らが健康、美化活動などに取り組む。	23	B	A	健康診断の結果をもとにした基本的な生活習慣の確立まではできていない。 保健委員会活動は機能しており、各部毎の役割にも滞りなく取り組めた。	
	◇教育相談を充実させる。	◆心身に何らかの課題を持つ生徒に対し、教育相談会議等	24	A			
					B		

全教育		の支援体制を強化し、個に応じた支援を学校全体として取り組む。	25	B	B	学校外の機関、制度を積極的に利用する支援体制は整っているが、個々への支援体制に不十分さが残る。 担任を始めとして全教職員の協力の下、ゴミの分別の初年度として一定の成果があった。
	◇校内の環境美化を推進する。	◆日常の清掃活動の徹底とともに、重点的な大掃除を実施し校内美化と学習環境の整備を行う。	26	A	A	
渉外・広報・事務	◇広報活動の充実し、学校情報の迅速に提供する。	◆ホームページを迅速に更新し、広報誌「桂だより」を地域に回覧するなど、本校の教育活動への関心を高め、理解を促す。	27	A	A	ホームページを常に迅速に更新するだけでなく、桂ブログは毎朝更新し、本校の日々の状況を広報することができた。また今年度は、研修旅行先からも活動状況をブログで広報できた。 学校公開等を通じて、本校の教育方針等を中学生やその関係者に十分に広報することができた。いずれも参加者は昨年度を上回る事ができた。 中学校訪問を実施したが、通学範囲全体としてやや偏りが出たことは課題としたい。
	◇積極的な生徒募集、本校への志願者の増加の取組を実施する。	◆学校公開・説明会、部活動見学、公立学校合同説明会などを通じて、中学生・保護者に本校の学校経営の重点や今後の方向性などを十分に伝え、興味を持ってもらうよう努める。 ◆保護者・PTA・学校評議員・学校評価委員との連携を強化し、外部評価を積極的に取り入れ、学校改善に活用する。	28	A	B	
			29	B	B	
	◇学校施設を整備・改修し、また広報活動を行う。	◆本校教育活動の円滑な推進と、施設設備を絶えず点検整備するとともに、施設内の広報板等を活用し地域住民や来校者に広報活動を行う。	30	B	B	

研究・開発	◇農業・環境のスペシャリスト育成を目指し研究開発に取り組む。	◆これまでの成果と課題を踏まえて、さらに深化させた研究開発に取り組む、全国規模の大会において優秀な成績を収める。	31	A	A	SSHに指定から4年目となり、課題研究授業TAFSを中心とした教育課程を展開し、生徒の学習意欲、進路指導に変化が見られ、成果をあげることができた。海外研修を実施したことで、生徒の海外への意識を高めるきっかけを作ることができた。その結果、2017日本ストックホルム青少年水大賞の大賞を受賞し、2017年に実施される世界大会への日本代表としての出場権を得た。
	◇専門科目の授業、教科指導の充実に取り組む。	◆TAFS(Training in Agriculture for Future Scientists)、専門学科の教科指導、総合実習、農業クラブ活動を通して、専門性を高めるとともに、規範意識を養う。	32	A	A	
		◆SSHの趣旨を具現化するため研究を国内外で発表できる生徒を育成する。	33	A	A	

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに効果が出なくても、継続することで成果が出てくる取組もある。粘り強く指導をお願いする。 ・地域とつながる活動など校区内でたくさん活動をされていて感謝している。今後、生徒たちの活動が外の人に見えるようにすることが大切である。 ・京都市乙訓地域選抜制度改革後、桂高校に行きたいと願ってきている生徒が増えたことが関連していると思うが、学習面でも意欲の高い生徒が増加したことは嬉しく思う。今後、学習面も含めしっかりとコミュニケーションのとれる生徒の育成をお願いしたい。 ・生徒の得意なところを早く見つけて、そこから生徒を成長させてやって欲しい。 ・ストックホルム水大賞日本代表に選ばれるなど素晴らしい活躍をしている。家庭や職場でも話題になっている。 ・傘さし運転の減少など一定のマナー向上は見られるが、しゃべりながらの自転車の併走や右側通行など危険な状況も見られる。
-----------------	---

<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>あらゆる教育活動を効果的に推進するため、各分掌・各教科が組織的かつ重層的に活動し、全教職員が常に学校全体の観 点に立ちながら各自の役割を果たす学校体制を構築する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コース制による教育課程の成果と課題を整理し、次期学習指導要領改訂を踏まえて内容の改善を図る。 2 SSH事業においては、国際的科学者の育成を目指し海外研修を実施するとともに、普通科教育の取組を一層充実させる。 3 早期に進路意識を高める取組を行い、自己の学力の把握と向上のため模擬試験の活用など、生徒が希望進路実現のために主体的かつ計画的に取り組むことを支援する。 4 生徒の規範意識を高め基本的な生活習慣の確立のために、全校体制で生徒指導に取り組む。また、SNS等による人権侵害を未然に防止するため、効果的な啓発活動を実施する。 5 発達障害等様々な課題を有する生徒に対して、教職員の共通理解のもと、スクールカウンセラーや中学校、地域支援センター等の関係機関と一層密接に連携し、進級・卒業に向け支援する。 6 次期学習指導要領改訂を見すえ「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指し研修の充実と授業改善を行う。
----------------------	--